

社会教育施設マネジメントの進め方（案）について

社会教育課

社会教育施設の今後のマネジメントについて、与謝野町公共施設等総合管理計画（実施計画）（平成 30 年 3 月策定）（以下「実施計画」という。）以外に、教育委員会として具体的な方針を定めていません。

実施計画の策定から 5 年が経過する中、野田川地域の就学前教育・保育施設の新設等の計画が一旦白紙になったこと、新型コロナウイルス感染症の流行等の社会情勢の変化、与謝野町公共施設等マネジメントの推進に関する第 1 次答申（令和 5 年 3 月 29 日与謝野町公共施設等マネジメント推進委員会）を踏まえた庁内における検討が進められている現状があります。

これらのことを踏まえ、社会教育施設のあり方に関する町の考え方（案）の作成について、次のとおり進めます。

1. 対象施設と庁外における検討手法

公共施設等総合管理計画（実施計画）に掲載の対象 42 施設を、大きく 4 つの分野に分けて町の考え方（案）を作成します。

スケジュール概要は別紙「与謝野町社会教育施設マネジメントに係る今後のスケジュール（予定）」のとおりです。

（1）地区公民館【20 施設】

令和 2～4 年度に実施された「協働のまちづくり調査事業」の取組等を踏まえ、令和 5 年度に与謝野町で目指す協働のあり方について、地域（町民）と行政の対話からその方向性を見出し、共通の「協働まちづくり指針（仮称）」を策定される予定です。

その動きと連携して、地区公民館のあり方も検討し、町の考え方を整理します。

（2）大規模集会施設【3 施設】※図書館含む

地区公民館のあり方に関する町の考え方（案）と連動する形で大規模集会施設の位置付けや性格について検討をしていく必要があります。

地区公民館のあり方に関する町の考え方（案）について、ある程度の方向性が見えてきた段階で、利用団体や公民館運営審議会、図書館運営協議会等の意見をいただきながら、大規模集会施設（図書館含む）のあり方に関する町の考え方（案）を整理します。

ただし、老朽化の著しい施設もあり、その進行の程度によっては、大規模改修や移転等について別途協議を進めていく可能性もあります。

（３）スポーツ施設【１２施設】、その他集会施設【１施設】

スポーツ施設は屋外体育施設（グラウンド等）と屋内体育施設（体育館等）に大きく２分されますが、照明用水銀灯の製造が既に中止となっているため、水銀灯を使用している施設等について、先行した議論が必要な状況となっていることから、比較的事業規模が大きくなる屋外施設から議論を始め、具体的な方向性が出た段階で、屋内体育施設の議論に進みます。

なお、議論においては利用団体やスポーツ推進委員、スポーツ協会等から人員選出を行ったスポーツ施設のあり方検討委員会（仮称）を新たに立ち上げることとし、スポーツ施設のあり方に関する町の考え方（案）を整理します。

また、その他集会施設（若者センター）については、大江山運動公園の一角に所在し、グラウンドとの関連が深いため、屋外体育施設の議論に含めます。

（４）文化施設【６施設】

与謝野町文化財保存活用地域計画（令和４年７月策定）との関連が深いため、与謝野町文化財保存活用地域計画協議会において、町の文化財の保存活用の議論に併せて、文化施設のあり方に関する町の考え方（案）を整理します。